

アジア太平洋諸国海軍大学セミナー各国発表より

平成29年2月、海上自衛隊幹部学校は、第20回アジア太平洋諸国海軍大学セミナーを主催した。このセミナーの主題を「アジア太平洋地域における海洋安全保障と協働の強化・四半世紀間の安全保障環境と海軍の役割変化」とし、副題の一つに、「冷戦終結・ソ連邦解体以降四半世紀における海軍の変化」を設定した。この副題での討議を割り当てられた各国海軍大佐級参加者のうち、フランス海軍のトーマス・フラヨルイ大佐と英海軍のティモシー・クリストファー・ウッズ大佐の両名が、本巻の特集に関する秀逸な知見を披露した。ここにその発表内容の邦訳を、本人の了解を得て掲載するものである。

(海幹校戦略研究会事務局)

フランス共和国 海軍大佐 トーマス・フラヨルイ

この素晴らしいセミナーにご招待頂き大変光栄です。この発表の場にいることを誇りに感じるとともに、皆様に心からの感謝を表したいと思いません。

まず、私の軍歴を紹介しますと、24年間海軍に在籍し、前配置は、戦闘水上艦艇、ラファイエット級のスルクフの艦長でした。この艦と伴にイエメン、アラブ湾、ペルシャ湾、さらに黒海に派遣されました。その後、国防省勤務となり、現在、今後5年間の国防戦略の作成に携わっています。おそらく次は、フォルバンという駆逐艦の艦長になる予定です。

アジア太平洋におけるフランス海軍に関するパンフレットをここに持ってきました。これは3kgと重く、フランスに置いておけば、節約できたのですが、100ユーロも余計に超過荷物として払いました。本日、四半世紀における海軍の変化を認識し、冷戦後の海軍を考える上で、フランス海軍が冷戦後、どのような状況をたどり、今どのような状況にあるかを中心に話そうと思います。まずは、簡単に数字だけを用いて説明したいと思います。

私は1993年に海軍に入隊しました。入隊時には冷戦は終結していましたが、海軍は空母2隻、フリゲート艦55隻、海上哨戒機25機を保有し、

人員は8万人でした。しかし、現在は空母1隻、フリゲート艦23隻、海上哨戒機11機、人員は4万人になっております。数字は、以上です。

発表の内容は、冷戦中のフランス海軍の特徴について、例えば、何故こんなものを作ったのか？から紹介させて頂き、フランス海軍の歴史について、ソ連崩壊の影響について、伝統的な海軍の二面的な役割について、海上における国家の力の復興について、それから、今も消えていない海洋安全保障の課題について、最後に、今、西側の海軍はどういう状況かという順序でお話ししようと思います。

冷戦中のフランス海軍は核抑止力を一義的に担っていました。フランス艦隊は、核抑止のために、フリゲート艦、空母、海上哨戒機、機雷掃討艦等で構成されていました。ALFAフォースと呼ばれる部隊があり、この部隊は、仏領ポリネシアの核実験専用の部隊で、フランス海軍の資源の40%を消費していました。フランスは、この部隊を維持することに取りつかれていました。我々は、それを弱者から強者への抑止力と呼んでいました。そのような考えはどこから来たのでしょうか。それは、核保有国になりたいという事実にあります。それは、スエズ紛争時に編成された遠征隊から来ています。フランス、英国及びイスラエルは、エジプトのナセル大統領がスエズ運河国有化を決定した時に、それに反対してエジプトと戦いました。戦術的には成功であったけれども、戦略的には大失敗でした。何故なら、アメリカとソ連が核の圧力をかけて、そして停戦をフランスに強要したからです。当時の大統領ドゴール将軍は、「我が祖国は、より自主的かつより独立すべきである」と決心し、海軍全体が核抑止のためにつくられたわけです。

財政危機及びその他の理由によりソ連邦が崩壊したとき、西側の潜水艦乗りは、自分たちが、いたるところでソ連海軍のSSBN（原子力弾道ミサイル潜水艦）を追尾し続けた結果だと装いました。西側は、冷戦が終わったことを受け入れ、平和の配当の分配が始まりました。そして、1995年に、シラク大統領によって徴兵制が終了し、マンパワーを集中させた部隊も終焉を迎えたのです。その一例をご紹介します。駆逐艦コルベールは、乗員は約600人でしたが、現在の駆逐艦、イタリアとの共同開発による駆逐艦ラングドックは、乗員約100人しか乗っていません。それから、防空艦シェフランは乗員約300でしたが、現在の防空艦、私が次の配置として艦長を狙っている艦フォルバンは、192人しか今乗員が乗っていません。

フランスは、熟慮の上で、少ない乗組員で高度に自動化された艦艇を選

択しました。なぜなら、フランス海軍は、許された戦域内に単機能の多数の艦艇を投入するより、高機能の駆逐艦1隻でそれができると考えたからです。

冷戦終結は、同時に介入という新たな利益も生じてきました。すなわち、東側の前線に張り付けておいた通常戦力を、突然、利用することが可能となりました。2極化の終焉は、凍り付いた紛争を溶かしました。特に、フランスはアフリカにおいて、歴史的な利益を有しており、それは、バルカン半島にも繋がっています。国連安保理は、もはや無力であり、介入を是認するようになりました。その証拠が、第1次湾岸戦争でした。

初期の時代、戦闘と海洋安全保障は対立した概念でした。例えば、18世紀の傭兵と私掠船のようによです。単なる話ですが、なぜ海洋の国民(marine nationale)と言うのでしょうか。陸軍は、フランス語でArmée de Terreと呼称され、空軍はArmée de l'Airと呼称されます。しかし、我々は、海上の陸軍ではありません。フランス語を正しく訳せばそうなりますが。我々は、海洋の国民(marine national)です。つまり、我々は、戦闘能力と法執行の両方を持っているからです。そして、この二つの性格を保っていきたいと思います。この二つの目標を達成するためには長い時間がかかります。この目標達成に必要な艦艇を設計し、建造するには15年かかります。その後、35年間か40年間運用されることとなります。

最近、ある傾向を認識することができます。海洋安全保障における武装化が進んでおり、ソマリアの海賊が携帯式ロケット弾で武装していることでも分かるように脅威が、更に暴力的になってきています。海賊によるヨットやクルーズ船の襲撃が、ここ数年、発生しています。フランス海軍は海賊対処のために1~2隻のフリゲート艦を派遣しています。1隻は、海上哨戒機1機を搭載するヘリコプター搭載強襲揚陸艦で、これには、病院の機能もあります。また、少なくとも海軍特殊部隊及び最低限3機のヘリコプターを派遣しています。北アフリカとスペインの間で行われた麻薬対処作戦でも、同様な量の装備を必要としました。これは、手段と能力の観点からは、非常に経費が掛かります。

今日、海洋においては、伝統的なパワーレトリックの復活が表面化しています。多くの艦艇を建造しているロシア及び中国の隆盛を目にしています。振興海軍国或いは新興海軍国が、あからさまな軍事的な展開を行っています。例えば、中国は、フランス海軍に相当する能力を4年間で作ろうと試みるばかりか、強大な海軍基地をジブチに造っているところです。私もそれを実際見てきました。単なる港、棧橋ではなく、1万人が駐留でき

る規模の巨大な海軍基地を作っています。インドのような地域パワーの海軍も、空母を建造しており、グローバルな海軍になろうとしています。ロシアはグローバルな海軍であり、地中海では20隻のロシア艦艇を観察することができます。シリアの前線に派遣されたとき、ロシアの多くの部隊と一緒に働く機会がありました。大西洋にはイランもやっています。ですから、もう許容できるスペースはなくなっているということです。

海洋とは何でしょう。海洋では、船は自由にどこへでも行けます。そして、人による縛れもありませんし、事故に巻き込まれるリスクは少ない、暴露するマスコミもない。ですから、非常に自己主張の強い示威行動もできます。

私の考えを皆さんと共有させて下さい。中国は通常及び原子力潜水艦を2008年からインド洋に配備しています。この事象は私にとってとても印象的であり、最初は1カ月か2カ月くらいではないかと思ったのですが、長期化しています。どこでも哨戒活動を行っています。バブ・エル・マンデブ海峡でも、ホルムズ海峡でも行動しています。ジブチに海軍基地も造っています。インド洋の南部にもさらに基地を造っています。中国は、将来とてつもない大きな海軍力を持つことになるでしょう。それは、非常に緊張度の高い海域で強圧的な力を持つことを意味します。これはフランスにとって決して見逃すことはできないということを強調しておきます。

この写真は私ですけれども、私はひげを生やさないほうが本当はいいのですけれども、この時は生やしています。こうすると、大佐としては年がもっと上に見えますよね。

我々のフリゲート艦の艦内で、中国の大佐と話しました。もちろん、対話は重要です。でも、協力には注意が必要です。ナイーブになってはいけません。重要な知識を、中国の海軍に、我々は与えようとは思っていません。

次に海洋安全保障上の課題について触れたいと思います。海洋の安全保障上の課題はなくなっています。また、伝統的なアセット、手段及び道具としての海軍力が再興しています。伝統的な主体である海賊、密輸、違法漁業は、依然として存在しています。海軍の行動と形を決める新しい主体も出てきました。テロ、大量の移民、環境問題といった新しい問題です。

「ソフィア」という新しい言葉を紹介したいと思います。ソフィアとは、EUが地中海で行っている作戦です。基本的には低級なアセットで対応するものです。ですから、我々は、この任務に熱中するわけにはいかないのです。しかし、重要なミッションであるけれども、この任務を行うことに

より、戦闘の知識を失ってしまうことになるので、それを学び直さなければいけないわけです。戦争の原理と戦闘のやり方を忘れてはならないのです。

また、もう1つ非常に重要なことは、我々の国会、国会議員です。我々は、法執行に焦点を当ててはおりません。もし、我々が、重巡洋艦、空母、戦闘機のような高性能のアセットを保有したいと思っても、我々は、これらの海洋の課題に焦点を当ててはおりません。しかし、最近、戦闘と海洋安全保障の間がぼやけてきており、これをハイブリッド戦争と呼んでいます。この傾向は、我々の艦艇が、海上において低レベルから高レベルのすべての規模の作戦が遂行可能であるべきことを示しています。

これは、海軍本来の能力と知識を喪失する危険です。ある海軍は、フリゲート艦や駆逐艦でもって不法移民に対応していますが、戦闘に関する考え方や作戦の知識を失ってしまうかもしれません。イタリアの話をしたいと思います。イタリア海軍とは非常に緊密です。イタリア海軍は、移民を救い、助けるために駆逐艦を派遣していますが、それによって何らかの知識を喪失しています。

今日、西側海軍においては、まず第1に、A2/AD(接近阻止・領域拒否)を可能にするような高性能の技術に焦点が当たっています。それは、ブロードラブ空軍大將が「夏休み」と呼んだこととサイバーを忘れているか、無視しています。

第2番目は、再び数字の話題に戻りますが、フランスでは、予算の制約のもと、技術対数量に関する多くの研究があります。遊びのような議論の場は広大です。バブ・エル・マンデブ海峡の事態は、何かあれば24時間以内に我々の経済に影響を及ぼすことが分かりました。加えて、ロシアのおかげでというか、NATOの重要性が再重要視されるようになりました。バブ・エル・マンデブ海峡を見てください。「質」と「量」の課題が論争しています。ロシアの北方艦隊が、2015年11月後半に5隻の潜水艦を大西洋に同時に展開したことは、大変印象深い事象でした。

第3番目は、要員に関する課題です。艦艇の乗員の生活様式は、安定、即時性、ソーシャルネットワークといった若者の願望と大きく異なります。フェイスブックは、艦内での使用が禁止されています。個人情報、もはや頑丈なものではなく、いつも狙われています。潜水艦の艦長に育て上げるには、22年かかります。原子力や潜水艦のような高い技術に携わっていた人間の獲得競争は、尋常ではありません。例えば、原子力の教育を

受けた下士官は、民間会社からの雇用の申し込みが多く、14、15年後には海軍を去っていきます。海軍で引き続き仕事をするよう慰留させることは、なかなか難しいことです。

海軍の中の本当の価値は、乗員です。もし、艦艇を動かす乗員がいなければ、いくら新品の近代的な艦を持っていても、無用の長物です。結論を言えば、我々はフランス海軍を、基本的に遠征軍としての概念で作っています。我々は、作戦を次の6つの作戦区域で行っています。つまり、アフリカ、西アフリカ、東アフリカ、ペルシャ湾、ペルシャ湾では、シリア及びイラク内のイスラム国に対するチャマル作戦（Operation Chammal）を実施しました。また、常にアジアに艦艇を派遣しています。特に南シナ海に派遣しています。4回の配備が今年あります。その中には、5月にヘリコプター搭載強襲揚陸艦に米国の海兵隊員と我々の海兵隊員を乗艦させて展開する予定です。

私は、ちょうど国防省でヨーロッパの海軍に関する研究をし、終了したところです。その結果は、ヨーロッパの海軍の中で頼りになるのは1カ国しかないということが分かりました。すなわち、強制的な雰囲気の中で、強制的な場所でオペレーションができるイギリスの海軍しかないということが分かりました。他のヨーロッパ諸国及びその海軍には、それぞれの国の防衛と海軍にもっと責任を持って欲しいと思います。

フランス海軍について手短かに寸評してみたいと思います。宣伝のような話になりますが。現在、海上に約35隻の艦艇が展開しています。そのうちの1隻は弾道ミサイル搭載原子力潜水艦で、国内に展開しています。この数以上のアセットがまだあります。私が言いたいことは、皆さんの間で、海軍のアセットを増やしたい、英国やドイツのように増やしたいというコンセンサスがあるということです。これが私の結論です。

英国 海軍大佐 ティモシー・クリストファー・ウッズ

セミナーに参加でき大変うれしく、また光栄に思っています。日本に来るのは初めてで、皆さんから海洋の安全保障に関する洞察力を学ぶことは、大変有益であると思います。特に意見交換をすることで、相互理解の増進になると思いますし、皆さんと、各国海軍の方々と一緒に過ごすことによって、相互の違いを学び、それから共通事項もたくさんあるということが分かりました。今後の文化研修プログラムもとても楽しみにしております。

簡単に私の経歴を申し上げます。私は、25年間、英国海軍に勤務しています。艦艇、潜水艦の運用を経験し、国防省勤務という陸上配置も経験しました。国防省勤務では、2010年と2015年に国防見直しにも携わりました。首相の下で、ある種の政策顧問として働いたこともありました。

教育の面において、この地域は私にとって、大変親近感があります。と言うのも、私の哲学修士号のテーマが、朝鮮半島における米中関係でした。また、博士号のテーマは、歴史的視点からの中国海軍の近代化でした。そういう訳で、この地域は、なじみ深い地域なのです。

次の15分ぐらいで、私の経験を踏まえて、今の不確実な戦略環境の中での英国海軍の振る舞いの基となる英国海軍戦略について話してみたいと思います。そんなに付け加えることは無いと思います。と言うのも、昨日と今日で、皆さんがすでにお話になっているからです。皆様方が脅威について、今日の海軍の役割について、さらに繰り返して協働、関与、相互理解の必要性について、繰り返しおっしゃいました。我々は、同じ安全保障と資源の課題を抱えています。海軍と海上における共同は、冷戦時代からその重要性は変わっていないと思います。

まず、範囲の観点から、最初に英国海軍の役割を与えている戦略環境から始めます。次に、不確実な現在及び未来における英国海軍の使命に焦点を当てたいと思います。それから、海軍の役割についてももう少しお話をしたいと思います。それらは、海洋安全保障とか、多くの国際的な友好国に対する安心の提供とか、環境的及び国内的危機にあった人々に対する人道支援、災害救難などの話です。次に、皆さん方とパートナーシップとして働くための必須事項を申し上げて結論にしたいと思います。国際法の支配の下、全ての国が繁栄するための自由貿易を許す公共領域の安全を維持するためです。

最初に、背景について申し上げます。ここには少し時間をかけたいと思います。と言うのは、我々の活動の根拠を与える背景になるからです。英国の最近の国家安全保障戦略において確認されている世界は、持続的な競争社会の一つと定義されています。その社会では、戦争と平和の伝統的な区分は、時に意図的に曖昧になっています。この文脈は、その競争が、イデオロギー的、領域的、あるいは経済的であろうとなかろうと、海上におけるそれ自身を必ずしも明示してはいません。海軍が変化する安全保障環境の課題への順応に失敗すると、海洋国家安全と繁栄が脅かされるということを歴史は警告しています。ヨーロッパからアジアにかけて歴史には、グローバルパワーに台頭した国が、戦いを決着させる或いはそれを引き延

ばせるシーパワーの欠落により、衰退に追い込まれた例が多くあります。したがって、海軍は、今日の戦略的文脈において、中心の存在です。

すべての海洋戦略に影響を及ぼす3つの要因があります。脅威、国家の野心の程度、利用可能な資源の3つです。まず、脅威について。脅威は能力と意図の組み合わせです。多くの国は、軍事的能力を高めています。デジタル化された戦場において、陸、海、空統合の必要性が認識されています。行動の自由を邪魔しようと試みる者がいます。フランス海軍のトーマス大佐が言及された海洋許否技術を拡散させ、展開させることによってです。例えば最新鋭の対艦弾道巡航ミサイル、長距離爆撃機、進化した戦闘機、潜水艦、機雷、進化した統合防空システム、強力な電子戦、サイバー、宇宙技術、さらに複合したあるいは非対称な戦術の普及などです。その良い例は、南シナ海で見らる中国の三戦、すなわち法律戦、世論戦及び心理戦です。

有難いことに、このような手段と敵対的意図を組み合わせる国家はありません。しかし、態度や姿勢を変えようとする国家と対決し、圧倒的に反撃する準備が必要です。加えて、我々の生活様式に反対する非国家主体という亡霊がいます。彼らは、テロリズムの行為により我々に脅威を与え続けています。重大な犯罪や武器の拡散のような違法な活動を海上もしくは海上を経由して行おうとする者もいます。

非伝統的な脅威には、例えば、韓国の代表が説明されたように、環境の災害とか、あるいは移民の問題もあります。こうしたすべての非伝統的な脅威への対処、例えばテロ対処、武器拡散への対処は、海軍が共同できる、また、共同すべき領域です。

それぞれの国家には、それぞれの国益があります。ほとんどの国家で大体一致しているということは、良いことですが、しかし、それを決めるのは国の大志ということになります。残念ながら、英国は、EU離脱を決定しましたが、島国の英国は外向きであり続けるということを決めております。現在の英国政府のモットーは、グローバルな英国であり、ヨーロッパの友好国、NATOの同盟国、アジア太平洋の皆さんと緊密な協力を続けていくということです。すなわち、機会と責任を拡大することによって、善なる力としてのグローバルな影響力を維持するということです。

最後に、国家の大志並びに地球規模の脅威に有効に対応する能力は、資源の消耗により制約され、加減されるかもしれません。2008年の金融危機以降、引き締め政策が続いてきました。英国は、G7、G20諸国と共に経済成長路線を歩んでいます。それは、英国海軍に、海洋安全保障を確保し、海

上での生活を保つために必要な能力に対する投資を可能にしています。再度申し上げますが、その能力には、アジア太平洋における物理的なプレゼンスが含まれています。

英国海軍の「ビジョン 2035」について話したいと思います。脅威、現在の国家の大志、制約された資源の下で、海洋戦略を示したビジョン 2035 は、まさに大胆なものです。これは次の 2, 3 世代に向けた我々の大志です。我々は中東とアフガニスタンにおいて防衛努力に費やした 15 年間の期間を経て、明確な方針と目的を再構築しました。

海上における多くの機会を作るために皆さん方の海軍と同様に、英国海軍も、革新的、効率的でなければなりませんし、また、新技術を有効に使っていかねばなりません。しかし、二人の仲間が本日話したように、大志の実現には、質の高い人材が必要です。訓練し、発展させ、2020 年代の試練の中にあっても回復力を維持し、オペレーションできる乗員を確保することが重要です。

我々の海上における優位性は、挑戦を受けています。能力を向上させた海軍からの挑戦と、あいまいなグレーゾーンで活動している敵対者からの両方の挑戦を受けています。アクセスは、すべての領域から挑戦を受けています。近代的な、ネットワーク化された海洋環境に迅速に順応し、それを利用する人は、それが危機に陥った時でも勝利する人でしょう。

国防及び安全保障に関する GDP2%の約束は、国防の大志を拡大するという新しい範囲と海軍に反映されるべきです。また海軍は、近代化するためにまた、構成を変更するために必要とされる資源を多く獲得したいと考えています。

このビジョンでは、同盟国、パートナーの重要性も強調しております。NATO 同盟国の核となる 28 カ国と他の多くのパートナーは、我々の集団的安全保障及び国防政策の依然として中核です。我々は、引き続き他の国際的機関及び 2 国間の関係に価値を置いています。特に、価値を共有する友好国、アジア太平洋地域の同盟国、とりわけ、5 カ国防衛取極め (FPDA) 参加国です。訓練や協働及び安全保障能力を発展させることにより、また同様に、潜在的敵対国に対して積極的に抑止、制止を行うことによって、パートナーに安心を与えます。最終的に、合法的に公海の安全を維持することは、常続的な国際的努力によります。1 国でこれはできません。

英国海軍は、昔から常に国際的であり、これからもそうです。したがって、国際的に設計されています。これは、これからもずっと真実です。バンガード級の弾道ミサイル搭載原子力空母による海上における常続した抑

止、2隻のクイーン・エリザベス級の空母を展開できる常統的空母能力、常統的な強襲揚陸レディネスは、「2035ビジョン」で公表された英国海軍の3つの核となる責務のうちの一つです。

英国海軍海上任務部隊の一部として、また、フランスとの遠征部隊として、常統的な空母能力と常統的な強襲揚陸能力をペアにすることは、世界中のどこにでも意味のある影響と力の投影の選択を与えるものです。

軍事力の展開の方法を特徴づけている5つの特徴的な原則によって、英国海軍は、これからも運用されます。

最初に、グローバルということについて。公共財によって提言された特徴的なアクセスを利用する能力を持つ海軍は、国の要求により、どこにでも、また、いつでも前方で作戦を行い、必須かつ費用対効果のある国際的な防衛関与努力を提供し、志が同じ海軍と共同して世界の交易路を守ります。我々は、遠征軍であり、これからもその能力を維持します。

2番目は、信頼についてです。信頼性は、我々が何かを行おうとするとき、全てを支えなければなりません。それは、訓練し、装備することから得られ、水兵を、エアマンを、海兵隊員をリードし、必要なときに彼らをいつでも展開に即応させることです。

3番目に、我々は、柔軟である必要があります。柔軟であることと、操作上の柔軟性の両方がありますが、小規模の訓練チーム或いは1隻のプラットフォームを派遣する場合は、個々に必要ですが、能力のある信頼でき、かつ連続して利用可能な海上任務部隊を展開する場合は、両方が必要です。

4番目は、使用可能であることが求められています。幅広いレンジで実行の準備を行うことです。例えば、危険から人を避退させ、保護すること。人道支援において十分な量の重要な救助を提供すること。常に脅す準備を行い、また、必要であれば、敵を打ち負かすこと。

最後に、効率的であることが、求められています。我々は、資源の制約から逃れることはできません。我々は陸軍及び空軍と同じ予算を競争しなければなりません。我々は、発明を推進すること、勇気をもたせて、新技術に投資する財政的自由を現実のものにする従来と違った考え方、作戦方法に関する違った考え方などが、絶え間なく求められています。

今日の海軍の役割について、申し上げます。これは、我々の全てにとって、真実です。これは、英国海軍だけのことではありません。私が選び出した5つの要素です。第1は、紛争を予防するために、係争地を安定化することです。英国海軍は、皆さんの海軍と同様に、商品や補給品の流通に必須の地域を鎮静化します。例えば、湾岸、西アフリカ、などです。日本の

海軍は、また、東シナ海、南シナ海及びアフリカの角の地域に関与しています。

2番目は、海上における安全保障を提供することです。大半の海上交易路は、一握りのグローバルなチョーク・ポイントを通ります。とりわけ、例えばホルムズ海峡、マラッカ海峡、ロンボク海峡、バベルマンデブ海峡及びジブラルタル海峡が非常に重要なチョーク・ポイントであります。我々は、海軍を展開するなどの有力なメッセージを送ることで、戦略的に強い立場を維持しています。ほかに何かあるでしょうか。我々は、更に悪化する状況を停止させることに努めています。

3番目は、この会議に象徴される国際的パートナーシップです。このような会議の重要性を強調すると同時に、環境問題等に対して訓練し、一緒になって実施し、また、友情を形にするために共同し、最終的に、平和を推進することを共に理解することです。

4番目は、経済を保護するためにグローバルな産業の安全の確保が求められていることです。数字はいろいろありますが、世界の交易の90%以上が海上輸送です。それは、必然的に不法な利益を求めているグループを惹きつけます。英国だけが単独で、交易と資源を海に依存しているわけではありません。英国は、約半分の食料とエネルギーを輸入しています。また、交易の95%が海上輸送されています。重要な船舶路を保護することによって、海軍は、歳入の数10億兆ポンドを守っています。それは、公共財へのアクセスへの安全を確保し、海賊と、テロリズムと、密輸及び違法交易と戦うことにも言えます。第151任務部隊は、海上交易の安全を確保するための多国間共同の卓越した例です。

最後は、我々すべての海軍にとって重大な任務である人道支援の提供についてです。海上訓練に精通している者であれば、タイムリーな災害救難を可能にする鍵となる重要な構成要素の一つであることを知っています。我々は訓練し、環境的な或いは政治的な大惨事に対応可能です。それには、5つの要素があります。まずは、インフラの復旧です。海軍は自己完結機能を持っています。また、柔軟でもあり、厳しい環境を克服できるのは海軍だけです。第2点目は、後方支援艦艇による援助と支援を提供することです。第3は、避退と帰還です。レバノンやリビアにいた英国人を救助したように、2010年、アイスランドで火山が噴火した際、20万人の英国人を帰国させました。第4は、迅速な行動です。災害や危機が発生したとき、迅速な行動が人命救助につながります。我々は、任務の幅に応じて、その中には人道支援も含まれますが、高いレディネス状態にある部隊を招集し

ています。一つの例として、海洋観測艦エンタープライズが3年間もずっと国外に派遣されていましたが、今年4月にやっと帰ってきます。17カ国を訪問し、8万8,000海里航海しています。地中海でソフィア作戦にも関与し、1万人近くの移民を救いました。

最後に、第5として、最悪の事態への備えも必要です。退避、物資の輸送なども含め、時間によって決定的な成果に違いが出てくるとことは明らかです。災害は、しばしば法と秩序を破壊します。海軍がその場に存在することによって、無秩序にならないように、そして、事態を安定化させることもできます。

私は海軍の役割及び不確実な時代における英国海軍の役割についてお話してきました。脅威は従前同様存在しています。冷戦中も、今も継続している任務があります。

グローバル化された世界の中で、アジア太平洋の事態であっても6,000海里離れた我々にも無縁ではありません。例えば、朝鮮半島での紛争の可能性や、南シナ海或いは東シナ海での事態がエスカレートすれば、全ての国々の人々に物理的にも経済的にも道徳的にも影響が出てきます。

英国海軍は幸いにも、グローバルな視点を維持し、コミットを継続しています。